

惑星の水はときおりしゃっくりを起こして虹とホエールを吐く

うろこなす頬ふくらませてポオと鳴く恐竜一騎が去ったまぶしさ

きつとまた対座している百年後の光に粒立つ茶釜の突起

たましひの気泡をきらり閉じてめてペットボトルに浮きたるあばら

なにもかもが一瞬と思えば雪白の尾をねじりつつ天を負う風

やわらかきものはかならず風になる ナウマン象の鼻 烏賊の足

水惑星のこれからを問う

井辻朱美

スフィックスも目つむるような風の青 箆笥の鑲がことごとく鳴る

脊椎は一本しかない立ち姿きみはヒーローのヘルメットを脱ぐ

たくさんの螺鈿の箸にかこまれて水惑星のこれからを問う

鉄骨をしずかにさやかにわたりゆく風の味がするとホビットは